

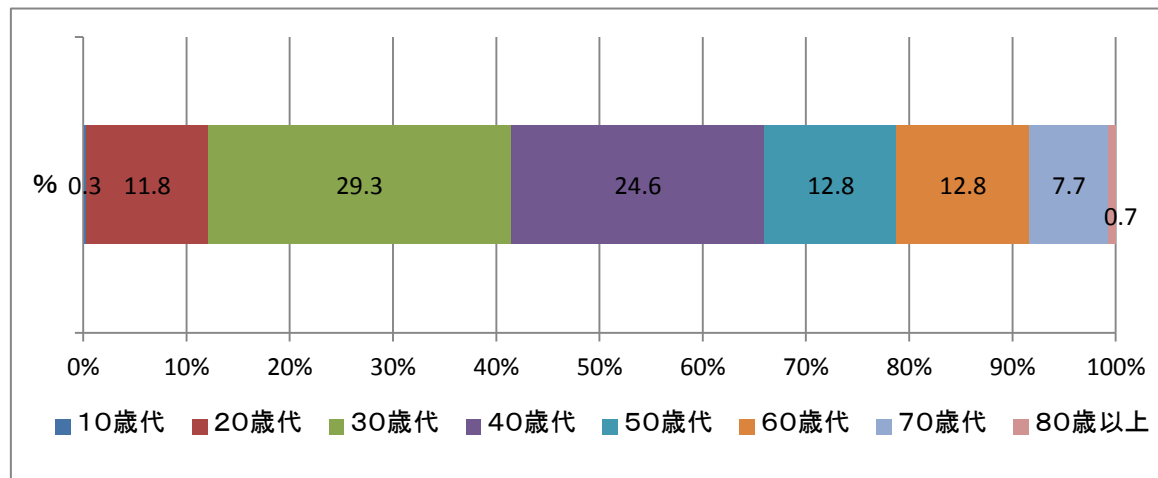
# 「男性の育児参加について」の調査結果

□ 調査期間 平成25年8月6日～平成25年8月19日

□ 調査の趣旨 和歌山市では子育て支援施策の一環として、男性が子育てに、そして子育てを通して家族や働き方、自分自身の生き方についても見つめ直せるよう、男性の育児参加が促進されるよう、様々な取り組みを行っています。男性の育児参加について、皆さまのご意見をお聞きました。

□ 対象者数 297（平成25年8月6日現在）

(内訳)	人数	%
10歳代	1	0.3
20歳代	35	11.8
30歳代	87	29.3
40歳代	73	24.6
50歳代	38	12.8
60歳代	38	12.8
70歳代	23	7.7
80歳以上	2	0.7
合計	297	100.0



□ 回答者数 190

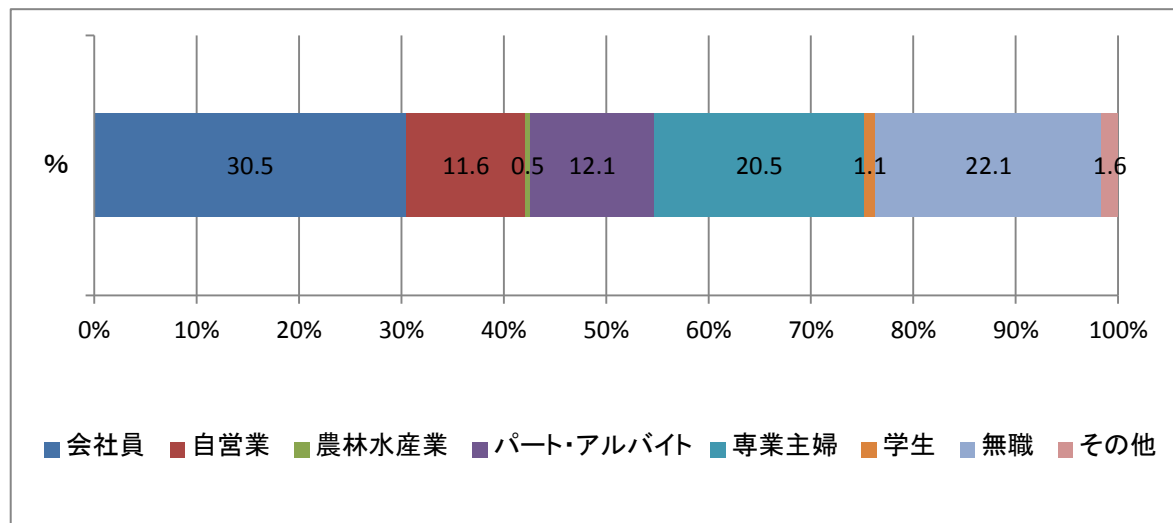
□ 回答率 64.0%（平成25年8月19日時点）

【ご職業】

回答	回答数	%
会社員	58	30.5
自営業	22	11.6
農林水産業	1	0.5
パート・アルバイト	23	12.1
専業主婦	39	20.5
学生	2	1.1
無職	42	22.1
その他	3	1.6
合計	190	100.0

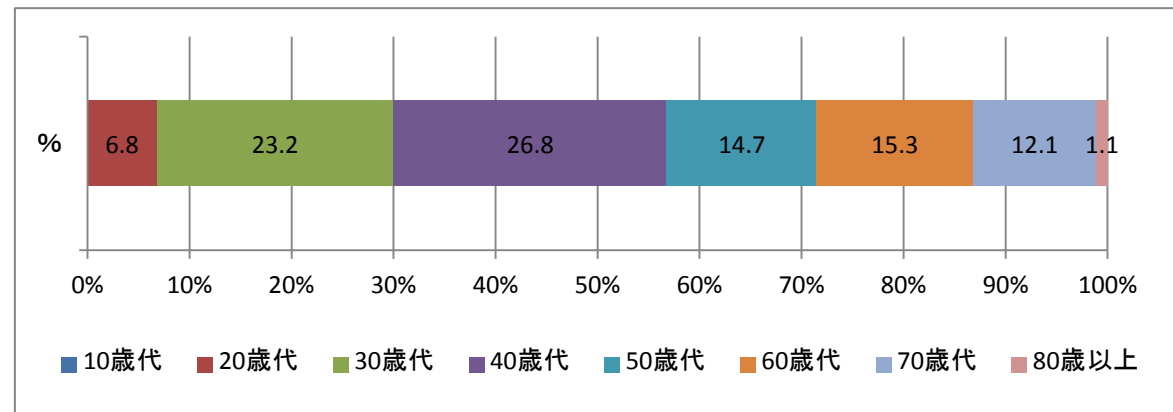
その他のご職業

- ・専業主夫
- ・フリーランス
- ・団体役員



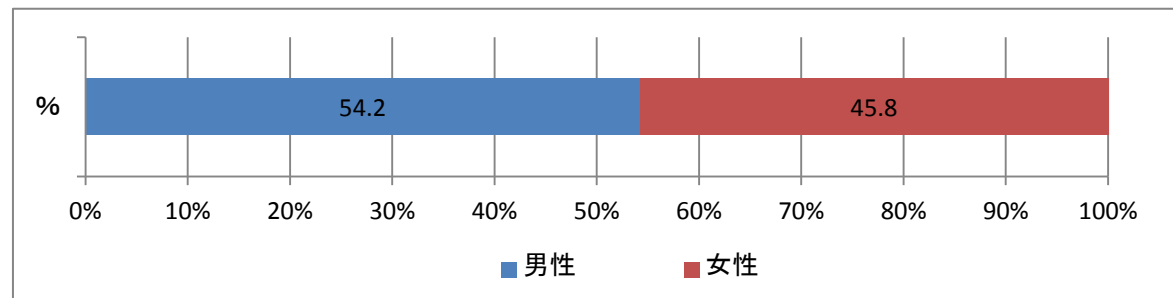
【年齢】

回答	回答数	%
10歳代	0	0.0
20歳代	13	6.8
30歳代	44	23.2
40歳代	51	26.8
50歳代	28	14.7
60歳代	29	15.3
70歳代	23	12.1
80歳以上	2	1.1
合計	190	100.0



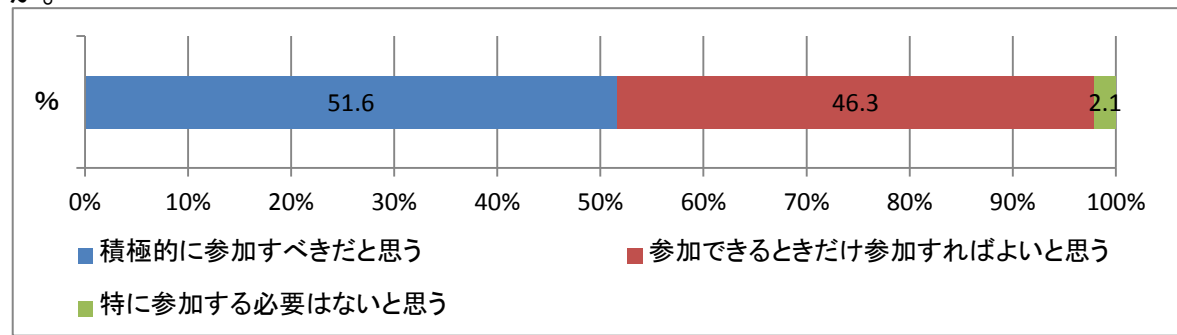
【性別】

回答	回答数	%
男性	103	54.2
女性	87	45.8
合計	190	100.0



問1 あなたは、男性が育児に参加することについて、どのように思いますか。

回答	回答数	%
積極的に参加すべきだと思う	98	51.6
参加できるときだけ参加すればよいと思う	88	46.3
特に参加する必要はないと思う	4	2.1
合計	190	100.0



問1-1 男性が育児に参加することについて、「積極的に参加すべきだと思う」理由をご記入ください。(この設問は任意回答です。)

- ・子ども、嫁さんとのつながりが大きくなると思うし、家庭円満になると思います。
- ・家族としての絆が強くなる。
- ・核家族が増える中、女性は社会にも出て男性と同じ立場になるのに男性だけが子どもにノータッチなのは女性からすれば負担が多すぎる。また、ほんの僅かな時間しかない子ども時代にパパとして関わらないのはもったいない。子どもと関わる事で親になれるし、責任も自然と身につくはず。
- ・自分達の子どものためのから、育児の楽しさや大変さを夫婦同じように共有し、相談し合い、夫婦同等の責任を持って子どもの成長を見守ることができればいいと思います。男性が育児に協力してくれることで、女性も社会に出やすくなると思います。
- ・子育てに男女間格差はない、男は参加すべく時間を作るべし。
- ・子どものために必要である。
- ・子どもと触れ合うことで、貴重な思い出を作ってほしいから。
- ・育児はみんなでした方がうまくいくと思うから。
- ・子育てには、夫婦がお互いに相手を尊重し、相手への思いやりが不可欠です。共働き家庭では出産すると女性の6割が会社を辞めてしまいます。原因は男性が殆んど育児休業を消化しないことにあります。企業も、男性が積極的に育児休業が取得できるよう働きかけが必要です。
- ・子どもを育てるという事は人生の中で自分の人間形成に最も影響力のあること。二人でつくった子どもなのに育てるのは女性という考え自体が間違ってる。
- ・女性も働き手として社会に関わるべきだし、同時に男性も育児の担い手として家庭に関わるべき。実際は各家庭の状況にあわせて臨機応変でよいと思うが、'積極的に'というくらいの姿勢でないと、世論も男性も動かないと思われる。
- ・子どもの価値観や人生観の基礎が形成される時期に、父親も育児に参加することで安定した価値観・人生観・倫理観を子どもに伝えることができる。
- ・子どもが健康で、素直な、明るい常識のある子に成長するには、親子のふれあい、愛情が必要であり、男性の育児も重要な因子である。
- ・男女共生だから。
- ・男性が育児をしてはいけない理由が見つけられない。
- ・子育ての大変さはもちろんだが、楽しさを夫婦でシェアすべきだと思うから。
- ・子どもは母親だけが育てるのではなく、父も含め、地域社会全体が育てるものだと思うから。
- ・子どもは男性、女性の両方からそれぞれからの育児を受けることでより成長すると思う。
- ・父親ができる教育もあると思うし、二人の子どもなんだから二人で育児をするべきだと思う。
- ・育児は女性だけであるものではないし、男性の方が気の付くことややりやすい場合も有る。
- ・育児は男性も楽しめる。
- ・子どもはたくさんの人で育てるべきだと思う。それくらい大変なことだから。

問1-2 男性が育児に参加することについて、「参加できるときだけ参加すればよいと思う」理由をご記入ください。（この設問は任意回答です。）

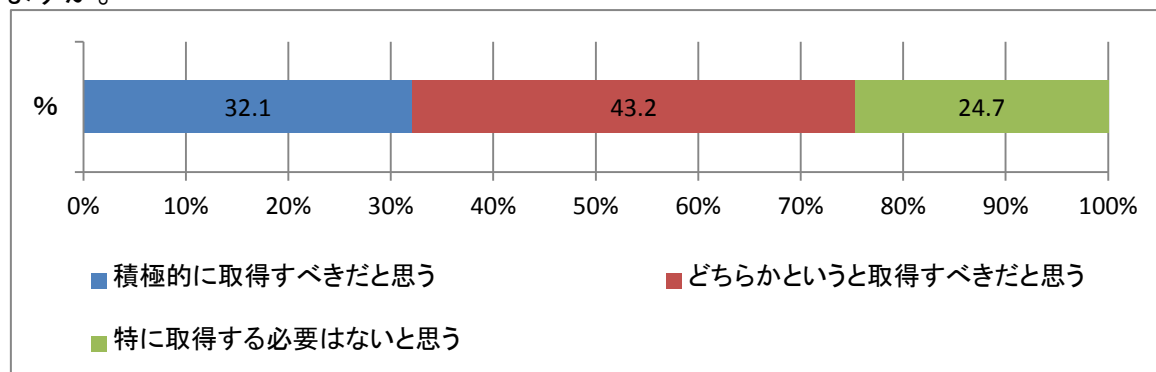
- ・普段は仕事に励み、家庭を支えてくれているから休日などはゆっくり休んでもらいたい。自分から参加したいと思うときだけ関わってくれれば嬉しい。
- ・前提が夫婦共稼ぎであれば積極的に参加すべきだが、妻が専業主婦の場合は出来る範囲で参加すればよい。
- ・仕事を休んでまで育児に参加する必要は無い。
- ・やはり子育ての基本は母親だと思います。
- ・仕事の合間に参加する。
- ・先ずは仕事を優先する。
- ・男性女性共に同等に、仕事をされている場合は、お互いの話し合いで決めればよいと思う。父親は父親らしく、母親は母親らしくが大切であると思う。
- ・子育ては男女構わずできる人がすればいいと思います。
- ・その家庭によって父母の役割が違うと思うので何もかもに「積極的」というのもどうかと思います。
- ・現実にはそう甘くはない、企業によっては男性に育児休暇を与えていないところも多いと思う。
- ・男性は生計を支えるのが本来の役割であり、余裕がある時に育児に参加すれば良いと思う。
- ・嫌々参加されても腹が立つから。
- ・夫婦で話し合って協力すればいい。やはり男性にも育児で出来ることと出来ない事もあるし、女性にもやってほしい事と任して欲しい事があるから、むやみに積極的な参加を求めず、自然な感じで無理せず参加を促せば男性側にも世間にも育児が受け入れやすくなると思います。
- ・まだまだ社会では男性が主になって働かざるをえないから。
- ・出来る限り参加するべきですが、積極には仕事に対して影響が心配され、出ない程度であればいいと思う。
- ・休みの日は子どもと一緒に遊んで欲しいから。
- ・育児の中心は母親です。母親をサポートする必要があります。
- ・若い男性の雇用が安定しないことが多く給料も安いので女性も働く人が多い。だから、子育ても男性が出来るときはすればいいと思う。
- ・お互い協力しあえば良いと思うから。
- ・仕事との両立するため。
- ・職場の環境が整っていない。育児休暇の制度はあっても、現実にはとれない。育児休暇制度は、会社の外向きのイメージ向上だけにあるようなものだと思う。
- ・育児経験がないので、参加すべきとは思いますが負担がわからない。

問1-3 男性が育児に参加することについて、「特に参加する必要はないと思う」理由をご記入ください。（この設問は任意回答です。）

- ・男性は仕事に専念すべき。家庭を守るのも育児も女性に与えられた重要な仕事。
- ・男性は育児ができるようにできていないと思っているので。
- ・育児は仕事と同様、非常に重要な任務です。片手間の中途半端な気持ちや行為では絶対に良い結果は出ません。人間が持って生まれた特性から考えますと、育児はやはり繊細で優しさを兼ね備えた女性がやるべきだと思います。そして、仕事は男性が死に物狂いで行うべきです。

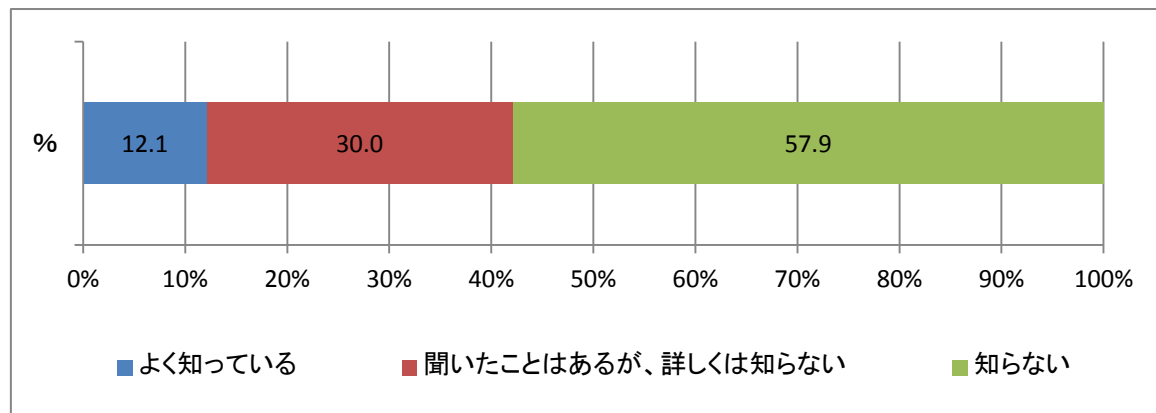
問2 あなたは、男性が育児休業を取得することについて、どのように思いますか。

回答	回答数	%
積極的に取得すべきだと思う	61	32.1
どちらかという取得すべきだと思う	82	43.2
特に取得する必要はないと思う	47	24.7
合計	190	100.0



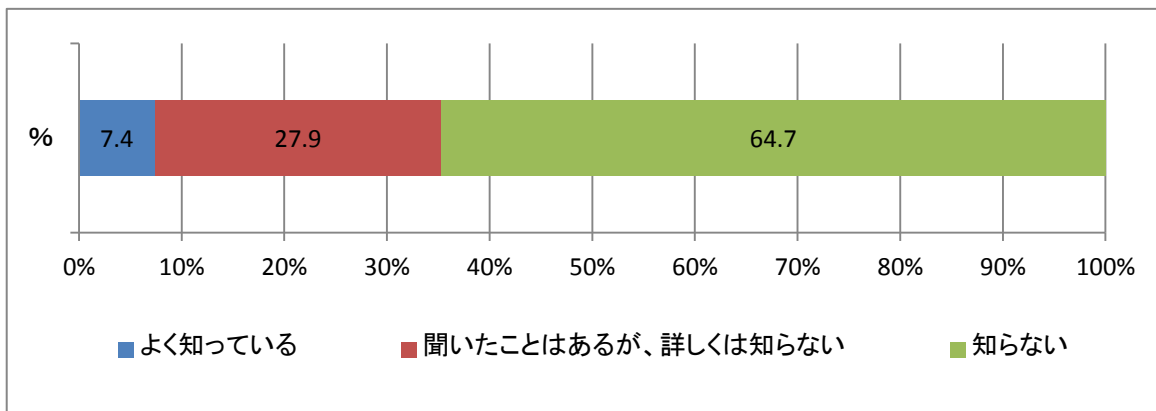
問3 「わかやまパパウィーク」を知っていますか。

回答	回答数	%
よく知っている	23	12.1
聞いたことはあるが、詳しくは知らない	57	30.0
知らない	110	57.9
合計	190	100.0



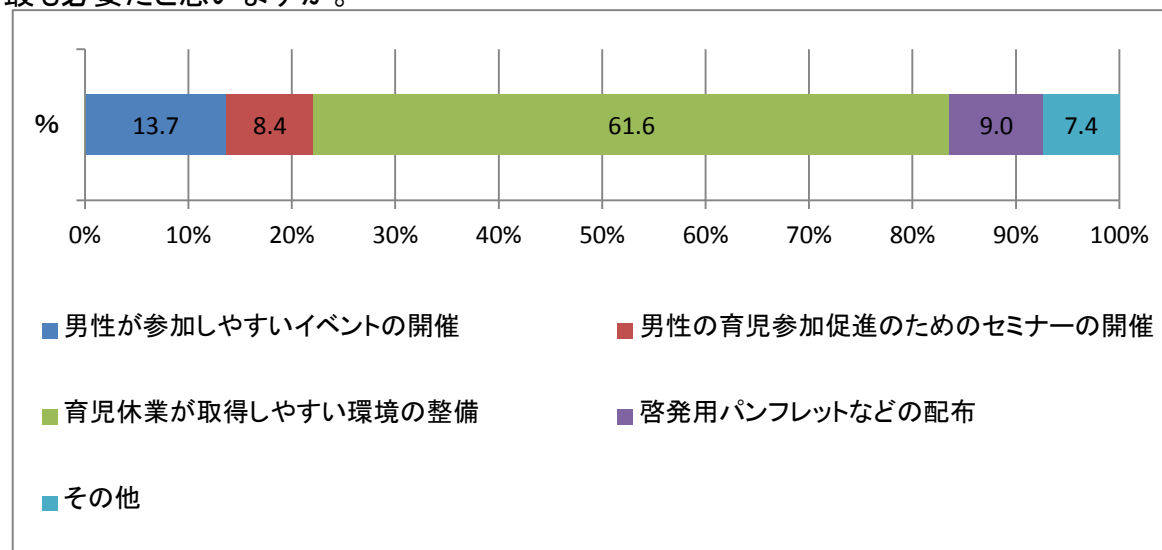
問4 「男性育児休業取得助成金事業」を知っていますか。

回答	回答数	%
よく知っている	14	7.4
聞いたことはあるが、詳しくは知らない	53	27.9
知らない	123	64.7
合計	190	100.0



問5 男性の育児参加支援についてお聞きします。どのような市の支援が最も必要だと思いますか。

回答	回答数	%
男性が参加しやすいイベントの開催	26	13.7
男性の育児参加促進のためのセミナーの開催	16	8.4
育児休業が取得しやすい環境の整備	117	61.6
啓発用パンフレットなどの配布	17	9.0
その他	14	7.4
合計	190	100.1



問5-1 「その他」と回答された方は、詳しくご記入ください。

- ・育児中の人だけでなく、市をあげて定時退社デーを推進すること。定期的に、定時退社を推奨し、確実に実行した会社に報奨金。育児中の若い人だけが早く仕事を切り上げて帰宅することは困難だから。
- ・法律、条令等で、法的圧力をかけないと無理。男女雇用均等も守られていない。
- ・あまり賛成ではありません。大企業や公務員なら、育休が取れるかもしれませんが、それ以外なら難しいと思います。
- ・職場はそれを容認してくれるか。積極的にアプローチしてほしい。
- ・企業への説明会、子どもを持つ女性の就業支援。
- ・支援されてもやらない人はやらない。
- ・支援は必要ない。
- ・育児より家事をマスターした方が妻の助けになると思うのでそういう支援。
- ・職場から離れることに抵抗もあると思うので、時短制度を支援する方が長期的に育児に参加することになっていいと思います。
- ・官庁、企業の上層部の幹部が率先して、育児休業が取りやすい環境を整備することにつくる。
- ・育児は乳幼児期だけではないと思うので、その時だけ支援という形もおかしい。
- ・離婚とか死別で妻を亡くされた男性に限っての支援に限定すべきと思います。ムダな予算は使われないように。
- ・日本の風土を変えるような施策をとらないと、だめでしょう。

問5-a 男性の育児参加支援について、男性が参加しやすいイベントの具体案があれば、ご記入ください。(この設問は任意回答です。)

- ・お母さんを一日、楽にさせてあげよう！という目的で、お母さんがイベントに参加している間に、お父さんが子どもたちの遊び相手をして見ているだけ、というのも、すごく意義があると思います。子どもと一日いる大変さや、お母さんを開放してあげれること、お父さん同士の情報交換などもできると思います。
- ・育児教育の実践について。
- ・アウトドア体験。
- ・支援センターなどで行っているような手遊びや運動などをパパも一緒に覚えるセミナー。
- ・イベント情報などもっと配信すべきだ。
- ・子どもと一緒に料理教室・体操教室など。
- ・パパウィーク、行ってみたいと思っています。
- ・いろんな子どもが集まる場所で、お祭りや踊りのイベントをやってみる。
- ・子どもと一緒に遊んで遊び感覚で出来るもの。

問5-b 男性の育児参加支援について、男性の育児参加促進のためのセミナーの具体案があれば、ご記入ください。(この設問は任意回答です。)

- ・外部講師と観客を交えた座談会が必要。
- ・お父さんの育児講座のような。
- ・事業所の理解を求めるには。
- ・仕事が忙しいと思うので、なにかのついでに参加できるようにするとよいと思う。たとえば育児用品店などで開催するなど。

問5-c 男性の育児参加支援について、育児休業が取得しやすい環境の整備の具体案があれば、ご記入ください。(この設問は任意回答です。)

- ・企業体質の改善・経営者の意識改革が必要かと思います。
- ・育児参加支援等の前に乳幼児完全保育・老人年金と同様の育児年金にて国全体が子どもを育てるシステムが必要と思う。
- ・育児休暇の取得に積極的な企業が良く分かるような仕組みを導入してはどうか？(市の認定ステッカーが掲示できるなど)
- ・官公庁からの率先取得、PRを拡大する。
- ・職場での育児休業を、より取りやすくなるように、職場の雰囲気作りがより重要です。
- ・サラリーマンの場合企業の理解と協力がなければ成り立たない。
- ・対象男性従業員名を職場内に掲示し、担当上司が積極的に育児休業取得を促す体制をつくること。
- ・若い人の働く場を増やし、世の中の人々の心にゆとりをもたせるようにしないと男性の育児休業は難しいのではないのでしょうか。
- ・市の条例などで、男性の育児休暇を義務化する。休暇を取れない職場環境の場合は、休暇日数分の賃金を上乘せして支払うことを義務化する。
- ・市が各企業に強く働きかけること。
- ・共働き等家庭の状況に応じ必要な時間に休業できればいいと思います。保育園や医者への送迎など。
- ・企業に義務化をすべきである。なかなか育児休業はとりにくい。
- ・労働時間の短縮や職場環境を改善する。男性や周囲の意識改革。
- ・条例で育児休業の取得を義務化して、違反事業者には重い罰則を科する。
- ・オムツ換えシートを男子トイレにも設置する。
- ・取得例の広報。取得者の多い企業の顕彰。

問5-d 男性の育児参加支援について、啓発用パンフレットなどの配布の具体案があれば、ご記入ください。(この設問は任意回答です。)

- ・商工会議所等での企業側への助成金周知ポスターやパンフレット、市報わかやま等での各家庭への啓発等。セミナーの開催のようにその目的で人を集めるのではなく、雇用者や新婚世帯の普段目に留まるところで掲示するのが良いと思います。
- ・企業ごとに配布し、企業から該当者に配布してもらう。
- ・個々人のケースによって参加の仕方が違うと思う。無理に取得する必要はないと思います。必要な人が気兼ねなく取得出来るような制度設計とこれの具体的な内容、啓発をしたら良いのでは。助成金まで必要ですか？と考えます。
- ・町の回覧板で配布。
- ・まずはイベントに行くキッカケになるように、どれだけ育児が大変かのアピール、その内どれだけ関わっているかのチェック評価などがあると良いと思う。
- ・無料情報誌等の広告等利用すればよいのでは。

問6 男性の育児参加について、ご意見等ございましたらご記入ください。(この設問は任意回答です。)

※主な意見を掲載しています(個人情報や固有名詞を除いて、原文に近い文章で掲載しています。)

- ・父親と子どもが触れあえるコミュニティがあれば参加しやすいと思う。
- ・育児休暇取得状況を他の市と比較して、公表してほしい。育児休暇取得が促進されている市町村の施策を導入してほしい。
- ・中小企業に勤務する者にとっては困難。
- ・子どもの時から、育児教育をすればよいと思う。その子どもが、大人になり、経営者になったとき、機能する。
- ・最初から、お父さんという生き物はいないです。何をしたいかわからない男性も多いので、妊娠中から父親教室などで、知識を得ておくといいと思う。
- ・経済的に余裕がないと難しい、生活が優先になる。
- ・男性の育児参加は、やって当然という認識を広めること。最近の若い世代の男性は積極的に参加し始める。
- ・いろんな企画、啓発用パンフレット等支援をしてくれているが、参加しているメンバーは、男性の育児参加が重要であること、女性の育児の大変さを理解している方が多いと思う。本当にわかっていない男性がどうすれば参加するのか考えることが大切であると思う。
- ・男女平等といってもそれぞれにしかできない役割があると思います。何もかもに男性が関わらないと「悪い」というような風潮に首を傾げます。
- ・育児参加といっても特別なことを希望しているのではなくて、日常のこと、たとえば食事や数時間だけでも子どもの面倒をパパが見てくれるようになるととても助かります。仕事に影響するような育児休暇の取得までは望んでいません。
- ・「男性が」という区別なく、考える態度が必要だと思う。
- ・共働きの場合はお互いに話し合い、交互にバランスのよい育児休業計画を先行して企業に提出し決済してもらう。
- ・イクメンという言葉だけが先行し、一種のはやりで終わらせないよう、継続的に子育てにかかわる具体的な指南書(できれば職業別)が必要。
- ・共働きの家庭では男性の育児参加は必然だが、専業主婦の場合必要性は薄いのではないか。
- ・核家族が増えているので、母親を孤立させて疲弊させない為にも父親の協力はぜひ必要だと思います。育児参加の呼びかけも大事ですが、世の中の心と生活のゆとりを得る事が一番です。お年寄りの支援も大事ですが、未来ある若い人に希望が持てる社会になれば自然と男性の育児参加はされると思います。
- ・環境の整備。
- ・女性が仕事をするのが当たり前の時代です。男性も一緒になって子育てすることで子育ての大変さ、仕事から帰ってきてからだけでなく、日常の子どもの様子がわかるようになれば大変さがよくわかるのではないのでしょうか。二人で育児参加することで離婚の数も減るかもしれません。



- ・単発的にするのではなく結婚前から、事前に周知徹底する必要がある。夫婦の両親がいる男性と、若夫婦だけの子育てをしている家庭と同一視はすべきでない。
- ・男性が育児することで子どもへの良い影響がある。
- ・男が女がという考えではなくて、育児に夫婦で参加するのは当たり前であるが、強いて言えば育児に対しても男が引っ張っていく感じの風潮が高まればいい。
- ・大企業といわれる会社では、育児休暇もとれるでしょうが、大部分が休めないのが現実です。まだまだ収入面で余裕のない社会だと感じます。
- ・一緒に遊んだり可愛がる事と育児は別。イクメンはナンセンス。
- ・育児は男女問わず協同でするものだと思います。イクメンパパなどと持ち上げる必要はないのでは？特別扱いをするのは変でしょう。
- ・一律的に育児休暇を促進するのではなく、家庭環境に応じ柔軟に対応ができることが望ましい。
- ・子育てするなら和歌山市へ引っ越したい！と思ってもらえるくらいになってほしいです。ひいては年収アップにつながると思います。
- ・不慣れな事で済ましてはいけない。
- ・現在の重要課題であり、市長自らがそういう認識をもって、重要課題として取り組まれるように望みます。
- ・育児に関する作業、情報などがどれだけあるのか把握できていないから母親がどんなにがんばっても理解されないのだと思う。単にイベントがあっても参加する人はどちらかというと育児に理解ある人だと思うので、まずは基礎知識を広めてほしい。
- ・男性だけでなく女性もともに参加する機会を設けたらよい。
- ・男性の育児参加によって仕事にもプラスとなると思う。
- ・社会、会社の男性比率が高く、育休が浸透していない。育休復帰後にスムーズに仕事に戻るか不安。
- ・一生の中で何度も無い貴重な育児体験を有意義なものにして頂きたい。
- ・男性向けの育児イベントを増やしてほしい。
- ・まだまだ育児は女性の仕事と考えている人は多いし、実際そうしなければいけない場面がある。さまざまな選択肢があるような世の中になってほしい。
- ・育児休業・時短就業など、上司の理解が重要かと思います。
- ・理想ではあるが、現実的ではない。
- ・子どもがいないのでまったくわからない。
- ・社会全体での支援が必要。
- ・5時で帰れる勤務が当たり前になるほうが先だと思う。
- ・もはや女性だけが育児に専念する時代ではなくなってきているので、男性も積極的に育児に関わっていかなくてはならないと思う。
- ・一緒に子育てはするものだと思う。
- ・時代の変遷と言えば簡単であるが、女性のキャリアアップや夫婦平等が今後のライフスタイルとして常識化して行く＝住みやすい環境となる可能性も大きいので行政のサポートは重要だと思います。

☆アンケートにご丁寧にお答えいただき、ありがとうございました。たくさんの貴重なご意見を頂戴することができました。

少子化や核家族化が進み、共働き家庭が増えていく中で、子育てに関する不安や悩みは多岐にわたり、子育て支援についても様々な視点からアプローチが重要かと考えています。

そしてその一環として、男性が子育てを通して家族や働き方、自分自身の生き方についても見つめ直せるよう、男性の育児参加の促進に平成23年度から取り組んでいます。

頂戴しましたご意見にもありましたとおり、男性の育児参加については『イクメン』という言葉だけにとらわれず、何よりも男性自信が楽しく、そして自然に子育てに取り組めるよう、今回のアンケート結果や頂戴したご意見なども参考にしながら、今後の施策検討をしまいたいと思います。